

令和4年度 第3回 荒川区清掃審議会 説明資料

議事内容

一般廃棄物処理基本計画の策定に関する基本的な考え方について（答申案）

令和4年10月25日
荒川区 環境清掃部
清掃リサイクル推進課

1 計画の基本的事項

(1) 計画策定の趣旨

ごみの現状を踏まえ、より質の高い循環型社会の構築に向けて、長期的な視点に立ち、**今後の清掃・リサイクル事業の方向性**を定める。本計画においては「食品ロス削減推進計画」を包含し策定する。

(2) 計画期間

令和5年度～令和14年度（10年間）

※令和9年度に社会情勢の変化等を踏まえ中間見直しを行う

2 新たな基本理念・基本方針

(1) 基本理念

環境区民による質の高い循環型社会の構築へ
～ SDGsの達成へ みんなで一步踏み出そう ～

これまでの計画の基本的な考えは引継ぎ、SDGsの趣旨を踏まえ、
一人ひとりが持続可能な循環型社会の構築を目指す。

(2) 基本方針

I. **リデュース・リユースの推進**

II. **質の高いリサイクル**

III. **適正なごみ処理**

3 計画目標

区民1人1日あたりの目標

評価項目	単位	令和3 (2021)年度 (基準)	令和9 (2027)年度 (中間目標)	令和14 (2032)年度 (最終目標)
総排出量	g / 人・日	783 g	732 g (▲51 g)	686 g (▲97 g)
総ごみ量 (不燃・粗大ごみの資源化量を含む)	g / 人・日	659 g	611 g (▲48 g)	564 g (▲95 g)
(参考) 家庭ごみ (区収集ごみ)	g / 人・日	541 g	496 g	453 g (▲88 g)
(参考) 事業系ごみ (持込ごみ)	g / 人・日	119 g	115 g	111 g (▲8 g)
資源回収量 (不燃・粗大ごみの資源化量を含む)	g / 人・日	144 g	139 g (▲5 g)	140 g (▲4 g)
リサイクル率	%	18.4%	19.1% (+0.7)	20.4% (+2.0)

4 第2回荒川区清掃審議会にて各委員からいただいた主な意見と区の考え方（1/7）

区分	意見の概要	意見に関する区の考え方・対応	備考
プラ	「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」施行に伴うプラスチック回収事業の運営方法や経費等の様々な問題についての検証が必要である。	モデル事業から、本格的な事業に進める上では、十分な検証が必要であると認識しています。本計画では重点施策のうち、「●廃プラスチックの資源化に向けたモデル回収事業の検証と拡大」において、『回収方法等に係るプラスチック課題を明らかにしたうえで、プラスチックの円滑な資源化を推進していきます』と表現いたしました。	素案P48
	プラ回収を実施するには、分別・収集するために新たなエネルギーがかかる。エネルギーの価格高騰や貴重性を考慮し、プラはサーマルリサイクルで活用すべきだと考える。 プラごみの排出抑制については、国に対しても容器包装を中心に負担金を課して、事業者が利用を避けるように進めていくことも重要であると考えます。	サーマルリサイクルについても一つの方法として認識したうえで、本計画では、課題の「・プラスチックごみ対策」において、サーマルリサイクル以外の方法についても言及するとともに、プラスチック資源循環を推進するため、重点施策のなかで、『回収方法等に係るプラスチック課題を明らかにしたうえで、プラスチックの円滑な資源化を推進していきます』と表現いたしました。	素案P23 素案P48
	プラ回収は、現段階では未知数であり、他の地区の実施については協議を行うことが望ましい。 現在のモデル回収で行っているデータをリサイクル業者に提示し、専門家との協議をすることが必要である。	プラ回収を拡大していく際には、十分な協議を行い進めていくことが大切だと認識しています。廃プラスチック回収の検証をする中で、積極的に専門家や先進自治体の意見を聞きながら実施をしていくことを念頭に、本計画では「●廃プラスチックの資源化に向けたモデル回収事業の検証と拡大」において、『回収方法等に係るプラスチック課題を明らかにしたうえで、プラスチックの円滑な資源化を推進していきます』と表現いたしました。	素案P48
家庭ごみの有料化	有料化に係る諸問題の早期解決を図り、実施に踏み切ってほしい。	本計画では、具体的な施策のうち、「●家庭ごみの有料化の検討」のなかで、有料化実施にともなう課題とともにその効果についても表現いたしました。	素案P46
	有料化についてのマイナス面についても掲載するべきだと感じる。 例) ・有料化は恒常的な減量に結びつかず、一時的なもの ・不法投棄・不適正排出が増加 ・税金の二重取りではないか	本計画では、具体的な施策のなかの「●家庭ごみの有料化の検討」において、家庭ごみの有料化は効果だけでなく、課題もあることを示し、検討が必要であると表現いたしました。	素案P46

4 第2回荒川区清掃審議会にて各委員からいただいた主な意見と区の考え方（2/7）

区分	意見の概要	意見に関する区の考え方・対応	備考
食品ロス	飲食店等事業者の食品ロス削減には消費者の協力が欠かせないことについて、その連携の具体的内容を記載したらどうか。	本計画では、荒川区の取組状況のなかの「(1)あら！もったいない協力店」において、具体的な連携内容として『消費者の適量注文と食べきりや、飲食店・小売店等の事業者による、ばら売り・量り売り等による食料品の提供等』という表現をいたしました。	素案P35
	一般家庭に浸透させるため、具体的な啓発が必要だと思う。 例) ・食ロスに関する活動を行った時に、ポイント付与 ・消費期限日を認識しやすいラベルでの表示等、見える化の対策	多くの方に届く啓発を実施するため、本計画では、具体的な施策の「●家庭における食品ロスの削減に向けて」において、『幅広い世代の区民が参加できるキャンペーンを実施すること』を表現いたしました。	素案P41
	素案に「課題」として掲載されている食品ロスの内容（素案P21）に、概要版に記載のある「食品ロス削減の考え方」の内容（概要版P9）を一部追記したらどうか。	「4.食品ロス削減の考え方」という項目をつくり掲載いたしました。	素案P35
	普及啓発活動の一つとして、農家の方と連携して食物（植物）を育てる過程をHPやYouTube動画などで紹介することで、食品を大事にし、食べ残しが減るのではないかと思います。	具体的な施策の「●子どもを含めた幅広い世代に向けた普及啓発」において、『食べ物を作ってくれた人への感謝の心や「もったいない」の心を醸成できるような取り組み』を行うことを表現しました。	素案P41

4 第2回荒川区清掃審議会にて各委員からいただいた主な意見と区の考え方（3/7）

区分	意見の概要	意見に関する区の考え方・対応	備考
適正排出の啓発指導	適正なごみ・資源の排出について、区民全体の意識を向上させる事業を実施し、マナーの改善を図っていく必要がある。	基本方針の1つの「3.基本方針Ⅲ適正なごみ処理」において『高齢化の進展や単身世帯・外国の方の増加といった社会の動向に対応』することに努めると表現しました。 また区民全体の意識向上にあたっては、「(1)【重点施策】環境学習の強化」において『環境学習を充実させ、環境に対する意識の向上を図っていきます』と表現をいたしました。	素案P51 素案P45
	外国の方や単身世帯への個々の状況に応じたごみ・資源の排出方法の「持続的な」周知と指導が必要である。	「●区民への効果的な啓発活動の実施」において、『転入者等、区に初めて住む人』、『外国の方』等対象を明確に絞り込んだ啓発を行うことを表現いたしました。	素案P49
	区外からの転入者だけでなく、区内転居した区民にも改めての排出方法の「持続的な」指導が必要である。（区内でも地域ごとに収集日が異なるため）	「●区民への効果的な啓発活動の実施」において、『分別排出のルールが守られていない世帯や集合住宅』等へのピンポイントな情報発信を行うことを表現しました。	素案P49
	個々の状況（単身世帯や外国の方、転入者等）にあわせて工夫されたパンフレットがあるとよい。	「●区民への効果的な啓発活動の実施」において、『従来の区報や啓発用チラシ、区ホームページに加え、SNS（ソーシャルネットワークサービス）等を活用し、すべての区民に必要な情報をより分かりやすく発信』することを表現いたしました。 また、「資料6.前計画の個別施策の状況」の55番において実施済みの事業について紹介をしました。	素案P49 素案P68
	ごみ（資源や粗大ごみ等含む）の分別方法が書かれた一覧表（A3用紙）があれば、掲示することができ、日常的に分別の意識が働くのではないか。	資源やごみ、拠点回収等も含めたA3の「ごみ・資源の正しい分け出し方」を作成していることから、本計画では「●区民への効果的な啓発活動の実施」において『従来の区報や啓発用チラシ』の存在を記載するとともに、分かりやすい発信が必要であることを表現しました。	素案P49

4 第2回荒川区清掃審議会にて各委員からいただいた主な意見と区の考え方（4/7）

区分	意見の概要	意見に関する区の考え方・対応	備考
表現	用語集を巻末の参考資料として掲載した方がよい。	巻末の参考資料として用語集を掲載しました。	素案P69
	子どもが見ても分かるような冊子があるとよい。 概要版だけでも「分かりやすい表現」や「ルビをふる」等の工夫をしたバージョンがあるとよいのではないか。	ごみと資源に関する子どもへの啓発用冊子があることについて紹介するため「●子ども向けパンフレットの作成」において『児童用の分別等のパンフレットを、引き続き作成し配布』することを表現しました。	素案P46
	図表に西暦表示のないものがある。長期的な推移を世界と比較して見ていく必要があるのでは、西暦表示がよいと思う。	図表の見やすさにも考慮しながら、各図表に西暦表示を記載いたしました。	素案各図表
	素案に「課題」として掲載されている「高齢化への対応」（素案P22）を「社会動向への対応」とし、外国の方や転入者の増加による課題も一つにまとめではどうか。	それぞれに応じた対応も求められることから、項目は分けて表現をさせていただきました。「高齢化への対応」と「外国の方や転入者等への対応」をそれぞれ表現しています。	素案P23 素案P24
	区民1人ひとりが取り組めるよう、分かりやすい表記・表現を要望する。	話題性のある内容をコラムとして掲載するとともに、巻末に用語集を掲載し専門用語や分かりにくい言葉の説明を行い、多くの方に読んでいただけるような計画を目指して作成いたしました。	素案各 コラム 素案P69
	数値目標の表の計算方法について、P14のコラムを見て初めて理解できた。数値目標の表に注釈として、資源化量の記載が必要ではないか。	数値目標の計算方法について、コラムに掲載するとともに、数値目標の表においては、欄外にそのコラムのページ数を示す注意書きを表現いたしました。	素案P14 素案P31

4 第2回荒川区清掃審議会にて各委員からいただいた主な意見と区の考え方（5/7）

区分	意見の概要	意見に関する区の考え方・対応	備考
リサイクル	家庭ごみのリサイクルに関する課題として、「スーパーなど小売店での容器包装類の店頭回収の推奨」を明記してどうか。事業者の責任として、自治体としてもそれを推奨することは重要と考える。	課題として掲載している「・家庭ごみのリサイクル」において、『小売店に対しても、容器包装類の店頭回収を通じた事業者責任について啓発を行うことが求め』られていることを表現しました。また、「●事業者への効果的な啓発活動の実施」においても、『スーパーマーケット等の小売店に対して、生産者責任の観点から、容器包装類の店頭回収の実施について推奨していく』ことを表現いたしました。	素案P22 素案P51
	具体的施策の一つとして「布・繊維のリメイク・リサイクルをするための活動支援」を提案する。 リサイクルセンターでの「着物のリメイク」等に加えた事業展開や支援。	「●あらかわりサイクルセンターにおける環境学習の実施」において、リサイクルセンターで実施している講座「着物・古着等のリフォーム」等の充実も念頭に、『区民が楽しくエコや3Rについて学べるイベントを引き続き定期的に開催』することを表現いたしました。	素案P46
	パソコン回収に係る事業展開があるとよいと思う。	「●他の品目の研究及び改修の実施」において、『民間のリサイクル事業者との連携によるリサイクル回収品目の拡大の検討について』表現いたしました。	素案P49
事業系ごみ	事業系ごみの資源化促進として、事業者の排出する電子機器等の分別回収の仕組みができると良いが、事業系廃棄物は難しいか。	事業系の資源・ごみは、事業者自らの責任において処理をすることとなっていますが、事業者に対しても資源化可能物における処理方法の情報発信などを行うことを念頭に、『事業系一般廃棄物については、資源化できる仕組づくりを検討』することを表現いたしました。	素案P47
	エコノミックリサイクルの普及が足りていない。制度の見直しも検討する必要があるかもしれない。	「●エコノミックリサイクルの推進」に、『エコノミックリサイクル※利用の周知を行うとともに、事業者の自主的なリサイクルシステムの構築を働きかけていく』ことを表現いたしました。	素案P50

4 第2回荒川区清掃審議会にて各委員からいただいた主な意見と区の考え方（6/7）

区分	意見の概要	意見に関する区の考え方・対応	備考
協働の推進	資源の集団回収について、不足する人手や担い手を確保するため、町会だけでなく婦人会等の団体の参入も促し、それらの団体にも奨励金を渡せる仕組みをつくるのはどうか。	「●集団回収等の自主的なリサイクル活動の推進」において、『ごみの減量に積極的に取り組む区民等への支援』について記載し、持続可能な仕組みづくりを目指すことを表現しました。	素案P49
	既存の表彰制度に加え、3Rの観点から協力的な団体や個人を表彰する仕組みを充実させることで、区民が率先して活動したくなる環境を整備するとよい。	「●集団回収等の自主的なリサイクル活動の推進」において『ごみの減量・資源化に関する模範的な活動を行っている個人・団体に対して、表彰や活動紹介』を実施していくことを表現いたしました。	素案P49
気候変動	計画策定の背景に、気候変動対策の重要性も追記してはどうか。世界的に2050年脱炭素に向けた取組が強化されており、資源循環・廃棄物処理分野でも、特にプラスチックや食品ロス削減対策強化によるCO2削減が重要な視点となっている。	「1.計画策定の趣旨」において、気候変動対策の重要性に言及し『ゼロエミッションに向けた動きが加速して』いることを表現いたしました。	素案P1
IT技術活用の推進	「IT技術活用の推進」（P52）に関する具体的な提案（例） ・不適正排出の監視システム ・非接触型ごみ収集システム ・非接触型廃棄物選別ロボット	「●IT技術活用の推進」において、現在研究が進められている具体的な技術の例示として『適正なごみ・資源の排出を促すための集積所の監視、非接触型で収集を支援管理する技術の導入』等について表現いたしました。	素案P53
ごみの減量	意識啓発として「生ごみたい肥deフレッシュ土作り」（エコセンターで開催）はとても有効だと思う。実施回数を増やすことを望む。	具体的な施策の「●家庭ごみの削減」において、『生ごみのたい肥化の推進』を記載し、引き続きのイベント開催について検討をしております。	素案P46

4 第2回荒川区清掃審議会にて各委員からいただいた主な意見と区の考え方（7/7）

区分	意見の概要	意見に関する区の考え方・対応	備考
サーマルリサイクル	現行計画（中間見直し）に記載のあるサーマルリサイクルについて、新たな計画では触れられていないが、サーマルリサイクルについての検証や現在の評価について掲載してみてもどうか。	課題の「・プラスチックごみ対策」において、サーマルリサイクルに対する現在の考え方とリサイクルの優先順位について表現いたしました。	素案P23
適正な計量	プラスチックや缶等、資源の軽量化に伴い、重量だけではなく容積による計測が必要なのではないか。5年後の中間見直しを見越し、このタイミングでその土台をつくるべきだと考える。	現段階では他の自治体等においても重量による計量を採用しており、比較検討を行うためにも重量による計量が必要となっておりますが、コラムにおいて『プラスチックごみの収集運搬時における飛散防止のための圧縮作業や、重量の割に体積が大きいことによる積載容量の変化等といった新たなコストも生じている』ことを記載するとともに、消費者である私たちにできる取り組みについても言及いたしました。	素案P30
要配慮者への対応	既存の高齢者等への個別回収は大変良いことだと思う。 高齢化への対応として、戸別訪問収集等の施策を充実をさせる必要性を感じる。	「●効率的かつ効果的な分別回収体制等の整備」において、『高齢化の進展といった社会の動向に対応したごみ収集を実施』していくことを表現いたしました。	素案P53
リチウムイオン電池	リチウムイオン電池を使用した製品の適正排出の必要性を感じる。	「●リチウムイオン電池等処理不適廃棄物の適正排出の啓発」において、リチウムイオン電池の不適正排出に伴う危険性や継続的な啓発を示すとともに、『先進自治体の取り組みも参考に』区による回収方法について検討していくことを表現しました。	素案P53